



Boring at Tanna, I. G. R. Atami Line.

丹那盆地ボーリング全景

丹那盆地ボーリング概要

丹那隧道の貫通する地質複雑にして就中丹那盆地と稱する凹地の成因に就ては學者の説區々として施行者をして將來の工事遂行の計畫を確定するに難からしむるもの也、依て此處に四ヶ所の「ボーリング」を行ひ以て此の難を除んとし、大正十三年三月開始し今や其の完終に近き二月末には完了の豫定也。

使用機械「クレリヤスAB型」	二機
アメリカンロープボーリング機	一機
インガースール會社キヤリツクス機	一機

にして「クレリヤスAB型」は「ダイヤモンド」を用ひ電動機によりて運轉せらるるものにして其の特徴とするは「ハンドフキード」なる事なり。

アメリカンロープボーリング機は綱堀にして「錐」を以て開鑿し「ダイヤモンド」ボーリング機の如く「コア」を得るを得ざれども泥土、土砂に對しては有効なるものゝ如し。

キヤリツクス機は「ダイヤモンド」の代りに「ショット」と稱する「カツチングメデイヤム」を用ひ「コア」を得る事は「AB型」に同じ。

渡邊理學士監督の下に、鐵道省の川久保技手、技工數名、日本石油會社の鑿泉手、武藏工務所の技術員により、熱海線建設事務所の直轄として工事を進めしものにして其の完了を待たでは工費詳かならざるも、一孔平均貳萬圓を要する見込なり。

此のボーリングの結果、地質は集塊岩安山岩の互層にして盆地下に於ても現在の隧道の掘鑿法を續行するに確定せる由。

丹那トンネルは丹那盆地の地下約六百尺の點を貫くものでボーリングは四ヶ所に施工した、圖の左は小學校其前に在る樁がクレリヤス式試錐、地質圖と對照して準次四ヶの樁を遙かに望む。

次にボーリング四ヶ所の中(D號試錐)カリツクス式に就て稍詳細なる寫眞圖を紹介する。

In boring for substrata specimens on the Tanna Tunnel Site, two Diamond boring machines, one American Rope Boring Machine and one Ingersoll-Rand Calyx Drill, were used under the supervision of I. G. R. Engineers with Drillers furnished by the Nippon Oil Company and the Musashi Engineering Corporation.